



日本老年医学会 と 日本糖尿病学会 が合同で
高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 を決めました。

高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 (HbA1c 値)

| 患者の特徴・健康状態 | | カテゴリーⅠ | | カテゴリーⅡ | カテゴリーⅢ |
|---------------------------------------|----|--------------------------------------|-----------------------------|--|--|
| | | ①認知機能正常かつ ②ADL自立 | | ①軽度認知機能障害～軽度認知症 または ②手段的ADL低下、基本的ADL自立 | ①中等度以上の認知症 または ②基本的ADL低下 または ③多くの共存疾患や機能障害 |
| 重症低血糖が危惧される薬剤(インスリン製剤、SU薬、グリノド薬など)の使用 | なし | 7.0%未満 | | 7.0%未満 | 8.0%未満 |
| | あり | 65歳以上 75歳未満 7.5%未満 (下限6.5%) | 75歳以上 8.0%未満 (下限7.0%) | 8.0%未満 (下限7.0%) | 8.5%未満 (下限7.5%) |

重症低血糖：自身で対応できず、第三者の援助を必要とするような低血糖

手段的ADL(日常生活動作)：買い物、食事の準備、服薬管理、金銭管理 など

基本的ADL(日常生活動作)：着衣、移動、入浴、トイレの使用 など

日本の糖尿病患者の3分の2は高齢者(3分の1が65～74歳、3分の1が75歳以上)とされています。高齡になると症状を自覚しにくいという特徴があり、低血糖でふらつき打撲や骨折につながる可能性もあります。

また、低血糖は繰り返すことで低血糖症状を感じられなくなることもあるため、年齢に関わらず低血糖を繰り返さないことは重要です。低血糖症状は不安に感じる症状が多いので、低血糖を起こしにくい食事・活動・薬剤のバランス調整ができるよう、患者さん・医療者が一緒に、生活や治療について相談し合うことも大切です。

○11月14日は世界糖尿病デー○

糖尿病は、インスリンが発見されるまでは、極端な食事制限で命を長らえるという治療法(飢餓療法)しかない「死の病」でした。現在では、合併症の発症・進展の阻止だけでなく、日常生活の質(QOL)の維持を治療目標に掲げています。

インスリンの発見者フレデリック・バンディングの誕生日11月14日を世界糖尿病デーとし、ブルーサークルをシンボルとして各地で啓蒙活動が行われています。

